



【演題】

「みんなの命輝くために」

ジャーナリスト

おお たに あき ひろ
大谷 昭宏

【プロフィール】

- 1945年(昭和20年) 東京生まれ
- 1968年(昭和43年) 早稲田大学政経学部卒
同年 読売新聞大阪本社入社、徳島支局勤務
- 1970年(昭和45年) 大阪本社社会部勤務、警察担当
- 1972年(昭和47年) 大阪府警捜査一課担当
- 1980年(昭和55年) 朝刊社会面コラム「窓」欄担当
以後7年間にわたって「窓」欄を担当
- 1987年(昭和62年) 読売新聞社を退社後、大阪に事務所を設けてジャーナリズム活動を展開している

■主な出演番組

テレビ朝日系列「スーパーJチャンネル」(月曜・火曜・水曜・午後4時53分)
TBS系列「ひるおび」(火曜・午前11時)
名古屋テレビ「ドデスカ!」(木曜・午前6時)
朝日放送「キャスト」(木曜・午後4時58分)
東海テレビ「みんなのニュースONE」(金曜・午後4時49分)

■主な著書(共著を含む)

「開け心が窓ならば」(解放出版社)	「権力犯罪」(旬報社)
「事件記者という生き方」(平凡社)	「日本警察の正体」(日本文芸社)
「権力にダマされないための事件ニュースの見方」(河出書房新社)	「グリコ・森永事件～最重要参考人M」(幻冬舎)
「冤罪の恐怖」(ソフトバンククリエイティブ)	「事件記者」「事件記者2」「事件記者3」(幻冬舎文庫)
「法か、掟か」(ゴマ文庫)	「ささやかな少数意見」(マガジンハウス)
「監視カメラは何を見ているのか」(角川新書)	「サラリーマンの忘れ物」(//)
「警察幹部を逮捕せよ!-泥沼の裏金作り」(旬報社)	「警察が危ない」(朝日ソノラマ)
「殺人率-日本人は殺人ができない!」(太田出版)	「新聞記者が危ない」(//)
「死体は語る 現場は語る」(アスコム)	「春美16歳の日本」(//)

※公式ホームページ <http://www.otani-office.com/>



【演題】

差別発言から20年
「あらゆる差別撤廃に向けて…
佐賀新聞の取り組み」

佐賀新聞社常務取締役・編集主幹

とみ よし けん た ろう
富吉 賢太郎

【プロフィール】

- 1949年12月 佐賀県佐賀市東与賀町生まれ。
- 1972年 4月 佐賀新聞社入社。文化部記者を振り出しに、その後は報道部で経済、農業、教育問題などを担当。報道部デスクや報道部長、文化部長など歴任。
- 1990年 6月 有田支局長時代、有田町と姉妹都市だった旧東ドイツ・マイセンを訪問。東西ドイツを隔てていた「ベルリンの壁」の崩壊から半年の様子をレポート。
- 2006年 4月 論説委員長。論説やコラム「有明抄」を執筆。
- 2011年 4月 取締役編集局長
- 2014年 6月 常務取締役編集局長
- 2015年 4月 常務取締役編集主幹

※佐賀家読(うちどく)ネットワーク顧問、佐賀県労働委員会公益委員、アバンセ評議員などを務めている。